

柏原町・氷上町・青垣町・春日町・山南町・市島町

# 合併協議会だより

No.4

2001.10.20 発行



## 公開セミナーを開催

住民の皆様の合併問題に対する関心を高めるとともに、自らの課題として考え、氷上郡6町合併の是非の方向性を含め、今後の「まちづくり」のあり方を共に考えていくため、平成13年9月29日(土)丹波の森公苑(柏原町柏原)において、「公開セミナー」を開催いたしました。

まず、基調講演では「まちづくりと市町村合併」と題して、専修大学法学部教授の小林弘和氏より、合併問題を考える視点などについて講演をいただきました。

また、合併協議会の活動及び協議経過を報告した後、住民パネリスト5名の参加により、「氷上郡のこれからのまちづくりと合併問題について考える」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

それぞれのパネリストからは、住民の視線から見た氷上郡の将来像、篠山市における現状や課題などについて活発な意見交換が行われ、約六百人の会場の参加者も熱心に聞き入っておられました。

ご参加いただいたパネリストは次の方々です。(敬称略)

森田茂樹(山南町) 藤原 匡(柏原町)  
由良ゆかり(氷上町) 西本嘉宏(春日町)  
杉本幸男(篠山市)

も く じ  
CONTENTS

2. 公開セミナー基調講演
3. 公開セミナーパネルディスカッション
4. こんなことが決まりました 住民懇談会を開催します  
住民意識調査結果(概要版)を発行 意見集発行 合併協議会のお知らせ



## 基調講演 「まちづくりと市町村合併」

専修大学法学部教授 小林 弘和 氏

今日は、私たちの生活の中において、今の自治体もっている役割ということからお話を進めます。

まず地方分権とは、これからは地方自治体が頑張らなければいけないと言われます。以前の自治体は公共的空間、家の外のことをやるものであったが、今は家の中にまで行政サービスをせざるを得ません。私たちもそれを依頼せざるを得ません。行政というのは、私たちの生活のかなり重要な部分を担わざるを得ません。いわば今日の自治体はいかに質の良い高度なサービスを提供するかを覚悟しないと、私たちの運命が変わってしまうということなのです。行政としても住民の運命を担うような仕事をしている以上、皆さんの意見を聞かなければ仕事はできないはず。逆に住民も自分の運命の多くの部分を自治体に担ってもらっているということからすれば、自分たちのこれからのサービスをどうするかということ、自分たちに最も身近な地方自治体で決定してもらいたいという意識を持つということが、地方分権を支えていく考え方であると思います。そういうことから、地方自治は何をすべきなのか、これまでと変わらなければいけないというような変革が求められています。

今日私たちは自分たちが住んでいるまち、これからの自分たちの生活のあり方ということ考えた時に、自治体のあるべき姿、そしてその自治体の中で、自分が果たす役割が大きいという認識を持っていかなければいけないと思います。そういう点では、これからは地方自治の主人公は皆さん自身ということになってきます。自分の運命は自分で決めるというのが原則だと思います。

地方分権においては、地方自治体は、受け皿論、つまり地域に権限をおろす以上は、それを受けるだけの能力を持たなければいけません。そのときに役所の専門性の能力や人的な数、財源だけではなく、住民の自治意識がどれだけ高いかということにかかってきます。

合併についても同じ問題です。これからは住民自身の運命を決める、そのための主役が皆さんだという地方自治ですから、ぜひまちの将来というものを考えながら、これから議論をしていただきたいと思います。合併が目的ではなく、その一つの手段が「合併」というテーマなのだと思います。その意味では、開かれた合併議論を進めていくことが大切です。

アンケートの中からも、今後重点的に取り組む施策とこれまで以上に重点的に取り組む施策という行政の本当の課題があります。これらをいかに推進していくのかを考えた時に、どうしても「合併」という議論も出てきます。

中高生アンケートにおいては、「この地域に住みたくない」という回答が多いことが心配されます。若い人達にとっての魅力あるまちづくりをどう進めていくかが今後の課題になり、若者のニーズを聞いた政策反映が必要になってきます。その意味では、一つの町という単位では解決できない問題がたくさんあります。

合併問題において、「メリット・デメリットとは何か」とよく言われますが、私は本当はないと思っています。メリットを生かすもデメリットをなくすも、住民がいかに議論をしていくかということだと思います。みんなで議論をしてこそ合併のメリットが生かされるものだと思います。自分の能力と役割に応じて、自治体関係者と共にまちづくりをやらなければならない。自分の運命を自分が決めるのだという意識を、ぜひ皆さんが持っていただきたい。それでこそ真の意味での地方自治というものができてくるのだと思います。

これからは競争の時代です。自治体間に格差が生じるのは明らかです。同じ自治体の中にも格差が出てきます。地域づくりの努力をするかしないかで決められてしまう。

その時のポイントとして、  
地域に愛情を持っている人がどれだけいるか  
自分の地域に誇りを持てるか  
危機意識（交付税削減の現状など）を持っているか  
になります。

合併が目的ではなく、自分たちの将来のビジョンを示して、その中でとりうるべき解決策の一つとして、合併を議論するということが、これからの合併のあり方だと思います。

# パネルディスカッション

基調講演をいただいた専修大学の小林弘和教授をコーディネーターとして、「氷上郡のこれからのまちづくりと合併問題について考える」をテーマに、氷上郡内の住民パネリスト4名（内3名は公募）と、市となった地域にお住まいの住民パネリスト1名によるパネルディスカッションを行い、合併問題に対する熱のこもった討論会が繰り広げられました

以下、各パネリストが述べられた意見の一部を紹介いたします。

森田茂樹氏（合併協議会設置請求書を提出した山南町同一請求代表者）

ひかみ青年会議所が約20年前に「ひかみはひとつ」を掲げ、以後さまざまな活動を展開し、法的にも正式に合併論議が行われることを願って合併協議会設置の署名活動を行った。

将来を見据えた時に、子供たちに明るい将来を築く新しいシステムを構築する時が来たと認識している。子供たちのために住民・企業・行政が一体感を持ったパートナーシップ型のまちづくりを今やらなければならないと確信している。そして、まちの将来を考えていく住民をいかに増やしていくかが我々の使命だと思う。

また、合併の是非に対する住民投票についてはしこりを残すことになると共に、まちづくりのビジョンを考える部分が抜けてしまう可能性を危惧する。議員がしっかり方向性を持つべきである。

藤原 匡氏（丹波地域ビジョン委員会委員）

町内の現状を見ると、大型スーパー等の進出により、従来の商業地域に危機的状況をもたらしており、いわゆる地域の活性化の方策が大きな課題である。

単町だけでは財政面から大きな事業ができないが、合併特例法による財政支援を使えば地域の活性化を図ることが可能になる。その意味からも、法期限内の合併を急がなければならない。そして新市を、従来のムラ型選挙から脱して、遠く離れていても任せられる市長、市議員に市行政を任せてみたい。

由良ゆかり氏（新しいコミュニティを創造する会スタッフ）

社会の一員として、子育て中の私たちにも何かできないかと、地域づくりに取り組んでいる。地域の現状を見ると、風習やしきたりが根強く残っていたり、男女の役割分業などが確立されていない感じがする。そのようなことを地域で考えていきたいと思っている。

将来のビジョンを考えるには、若者の意見を反映したまちづくりと、行政への「参画と協働」が大切である。そして規模の大きさを中心に論じるのではなく、住民がいきいきする地域をつくるのが重要である。

西本嘉宏氏（氷上郡六町合併を考える郡民の会事務局長）

我々の活動の趣旨は、国の押しつけによる合併には反対であり、住民自ら考えるもの 徹底した合併に関する情報の公開と議論の場を保障させる 住民の意思を正しく反映させるために住民投票の実施をめざす として活動を行っている。

今日の合併問題を見ると、地域的な課題にもかかわらず、国が「アメとムチ」をもって推進をしているところに問題がある。また、行財政の効率化を優先することはメリットであっても、行政サービスでは低下を招くというデメリットに変わっていく部分がある。

そして、住環境の豊かさや行政サービスを考えると、今の規模の基礎的自治体を基本にして、小学校区単位を重視したまちづくりを進めることが大切である。

「合併問題」は、住民が自分たちの将来のためにどの道を選択するかという重要な課題であって、その方法として住民投票や住民意識調査を実施することが将来にとって大事なことであり、今のコミュニティのあり方をお互いに論議することが大切である。

杉本幸男氏（元丹南町長）

篠山市の合併は、議会発議と共に原則非公開でスタートし、氷上郡には参考にならない。やはり住民と共に議論をすることが、住民と行政との信頼関係を保つことにつながる。

合併には、合理化は避けられないが、地域間格差への不安がある。中央と周辺部の緊張したバランスをとることによって地域全体が良くなっていく。また、行政自体もその部分に十分配慮をして取り組むことが大切である。そして、地域エゴを捨て、何が優先されるべきかを議員がしっかり判断していくことが大事である。



# ごんぱくびが決まりました

## 第6回合併協議会 7月17日

協議第1号  
公開セミナー実施計画(案)  
について

合併問題に対する関心を高めるとともに、住民が自らの課題として考え、6町合併の是非の方向性を含め、今後の「まちづくり」のあり方を共に考える「公開セミナー」を開催することが確認されました。

## 第7回合併協議会 8月31日

協議第1号  
合併協議会の運営について

会議開催日を事前調整することとし、第8回は10月9日(水上町)、第9回は11月7日(青垣町)、第10回は12月8日(春日町)に開催されることが確認されました。

### 協議第2号

将来構想策定(案)について

合併の是非の方向性を確認するための重要な資料となる「将来構想(まちづくりビジョン)」について、次の事項が提案され、今後も継続して検討していくことが確認されました。

### 序 構想の背景と目的

#### 氷上郡6町の特性と課題

- 一 氷上郡6町を取り巻く環境
- 二 氷上郡6町の歴史と特性
- 三 氷上郡6町の現状と課題

### 協議第2号

公開セミナーについて

パネルディスカッションにおける公募住民パネリスト3名と新市の住民パネリスト1名の決定、並びに女性パネリスト1名を追加することが確認されました。

## 合併協議会のお知らせ

### 第9回 合併協議会

日時 13年11月7日(水) 午後1時30分より  
会場 青垣町民センター

### 第10回 合併協議会

日時 13年12月8日(土) 午後1時30分より  
会場 ハートフルかすが

## 住民意識調査結果(概要版)を発行

6月に実施いたしました「住民意識調査」の集計結果がまとまりました。皆様には、概要版(全12頁)を全戸配布いたしますので、合併問題を検討する資料としてご活用下さい

### 回収結果

	配布数	回収数	回収率		実数	構成比
柏原町	930	590	63.4%	中学3年生	857	57.3%
氷上町	1,800	1,133	62.9%	高校3年生	638	42.7%
青垣町	730	469	64.2%	氷上郡計	1,495	100.0%
春日町	1,220	788	64.6%			
山南町	1,320	806	61.1%			
市島町	1,000	625	62.5%			
氷上郡計	7,000	4,466	63.8%			

## 編集後記

合併協議会が設置され事務局職員として派遣されてから1年が経過しました。前例の少ない業務がゆえ、それぞれの行政経験だけをたよりに、がむしゃらに事務をとってきました。

6町職員の個性がぶつかり激論になる場面もありますが、今では心地の良い刺激となっており、お互いの資質とチームワークを高め事務局内は活気にあふれています。

今後も、個性の違う6町職員のそれぞれの持ち味を活かし、心をつなげて、真剣な合併議論がさらに深まり、氷上郡の将来に悔いを残さない選択ができますよう、事務局職員として精一杯努めて参ります。皆さんの合併議論への参加と協議会運営の動向にご注目頂きますようお願いいたします。

## 住民懇談会を開催します

合併問題に対する関心を深めるとともに、住民が自らの問題として考える機会として、協議会の活動及び状況報告や住民の視点からのまちづくりについての意見交換を、各町ごとに11月に開催します。

なお、開催日時・場所等につきましては、決定次第各町役場よりお知らせいたします。

## 意見集を置いています

意見箱やメール、はがき等でいただきましたご意見をまとめ、各町のご意見箱の横に冊子を置いています。ぜひご覧下さい。なお、掲載については、合併協議会意見等取扱い基準に準じています。

## 合併協議会は傍聴できます

合併協議会は、どなたでも傍聴できます。希望される方は、会議開始の15分前までに受付をお願いします。(定員を超える場合は、抽選とさせていただきます。)